

**飛躍への挑戦！**  
**高知県産業振興計画**

変わろう・変えよう・産業と暮らし

## 第3期高知県産業振興計画 **ver. 2**

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《地域アクションプラン》(案)

物部川地域抜粋版

平成29年2月

高 知 県



## 2 物部川地域

### (1) 地域の産業を取り巻く状況

物部川の流域に位置する当地域は、上流域では豊かな森林資源を活かした林業やユズ栽培、肥沃な下流域は県内最大の穀倉地帯であるとともに施設園芸が盛んです。また、高知龍馬空港や高知自動車道、JR土讃線、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線といった交通インフラが整備され、高知東部自動車道も延伸へと順次整備が進められています。

農業分野では、水稻、施設・露地野菜、果樹、花き等、多様で多品目の生産が行われており、中には全国屈指の生産量や品質を誇るものもあります。また、消費者ニーズに対応した環境保全型農業など特色ある取組も行われています。

しかし、近年では、生産者の高齢化や担い手の減少及び栽培面積の減少などによる産地力の低下や、難防除病害虫の発生など生産面での課題に加え、燃油価格の変動や生産資材価格の高止まりが農業経営を圧迫しています。

林業分野では、木材価格の低迷が続いていますが、地域の豊富な森林資源を活かし、小規模な森林所有者でも間伐材の収入が得られるよう、「森の工場」としての集約化施業の合意形成に積極的に取り組み、その結果、認定面積の拡大が図られてきました。

また、国の森林・林業再生プランの認定を受けた香美森林組合及び物部森林組合が、ドイツやオーストリアの林業を参考にした先進的な作業システムを導入し、原木の増産に取り組んでいます。

水産業分野でも、魚価の低迷、燃油、資材の高騰等により厳しい状況にあります。こうした状況の中、高知県漁協手結支所では、平成21年から地域の主要魚種であるシイラについて、漁協自ら入札に参加するとともに加工を行い、漁業者の所得向上と地域雇用の創出に取り組んでいます。また、養殖業の振興を図るため、養殖業者等との協業化に向けた検討を行っています。

工業分野では、充実した交通インフラのもと、早くから工業団地が整備され、従来のものづくり製造業や半導体等の先端産業、情報産業の集積が県内ではトップクラスでした。しかしながら、昨今、半導体市場では海外企業との競争激化によって、生産が縮小せざるを得なくなり、平成27年12月、ルネサス高知工場の閉鎖が決定するなど、厳しい状況にあります。

商業分野では、小規模事業者が多く、地域に進出した大型量販店や隣接する高知市などに消費が流出し、地域の商店街では空き店舗が増加しています。

観光分野では、アンパンマンミュージアムやのいち動物公園、西島園芸団地などのファミリー向けスポットから、龍河洞や長宗我部元親の史跡、絵金蔵などの歴史スポットまで、幅広い層に人気がある地域ですが、その魅力を活かしきれていない状況にあります。そのため、体験型観光メニューの造成や観光情報の発信、地域連携による周遊促進を行うとともに、新たな観光拠点の整備に向けた検討などの観光活性化への取組を進めています。また、高知中央広域観光協議会及び平成28年6月に発足した物部川DMO協議会においては、恵まれた自然環境や豊富な歴史資源、おいしい食などの魅力あふれる観光資源を活かした、圏域ならではの広域観光の推進に取り組んでいます。

## (2) 地域アクションプランの概要

当地域では、園芸基幹品目の振興や林業の素材生産の拡大などに引き続き重点的に取り組むほか、地産地消の拡大や食品加工などにも取り組みます。

また、水産加工や商業振興、さらには交流人口の拡大に向けて、観光振興などに取り組み、地域の活性化、産業の振興を図ります。

農業分野では、施設園芸の基幹品目の中からニラ、シトウ、エメラルドメロンを対象を絞って振興を図っていくこととし、品質の向上や生産量の増大、コスト低減技術を普及するとともに、消費地との連携を進め、ブランド力の強化や消費拡大に取り組みます。

また、中山間地域の基幹品目であるユズでは青果出荷日本一の産地維持のため、担い手の育成・確保に取り組む他、大規模経営体の育成を行います。さらに、品質管理や計画出荷などブランド力の向上に向けた取組を推進します。

地産地消に関しては、学校給食及び業務筋への食材供給の拡大や直販所の体制整備、サービスの充実等による農産物の販売拡大に取り組みます。

林業分野では、森林所有者の所得向上のために森林の団地化を推進し、施業を集約するとともに、高性能林業機械の導入や効率的な作業道の開設により、搬出間伐の労働生産性の向上を図ります。また、大型製材工場「高知おおとよ製材」や木質バイオマス発電施設「土佐グリーンパワー」などの需要にも応えられるよう、原木生産量の増産を目指します。

水産業分野では、主要魚種のシイラや養殖魚の加工品について、加工技術及び衛生管理の向上に取り組みます。

商工業分野のうち、伝統産業である土佐打刃物やフラフについては、その魅力のPRや販路開拓等により販売拡大に取り組むとともに、技術や文化の継承を図るため、後継者の育成に取り組みます。

また、地域の商店などが一体となってイベントの開催や販路の開拓、販売拡大に取り組むとともに、地域資源を活用した商品開発に取り組むグループの支援を行います。さらに、地域の中心商店街や中山間地域の暮らしを支える商店など、エリアの実情に合わせて支援を行い、移住者の起業・創業も見据えた空き店舗対策等による商店街の活性化を図ります。

観光分野では、既存の観光施設とともに、地域にある自然や歴史などの観光資源を有効に活用した体験型観光プログラムの開発や磨き上げ、情報発信、周遊の促進に取り組むなど、観光の活性化を図ります。

また、広域観光の推進においては、高知中央広域観光協議会及び物部川DMO協議会を活用し、地域内の観光事業者が一体となって、観光商品の開発や磨き上げに取り組むとともに、物部川地域の魅力を集めた企画イベントの開催など、流域をPRする新たな取組をバージョンアップさせながら、物部川地域全体の交流人口の拡大に取り組みます。

(3) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
シシトウ出荷量 <注1>	H27 : 679 t	H31 : 760 t
ニラ販売額	H27 : 27.1 億円	H31 : 29.7 億円
エメラルドメロン販売額 <注2>	H27 : 4.5 億円	H31 : 4.6 億円
ユズ販売額	H27 : 5.2 億円	H31 : 5.2 億円
原木生産量	H26 : 35,887 m <sup>3</sup>	H31 : 50,000 m <sup>3</sup>
シイラ等加工事業の販売額	H26 : 16,011 千円	H31 : 20,000 千円
観光客入込数 <注3>	H26 : 134.1 万人	H31 : 144.5 万人

注1 : シシトウは南国市の3JAの取扱分

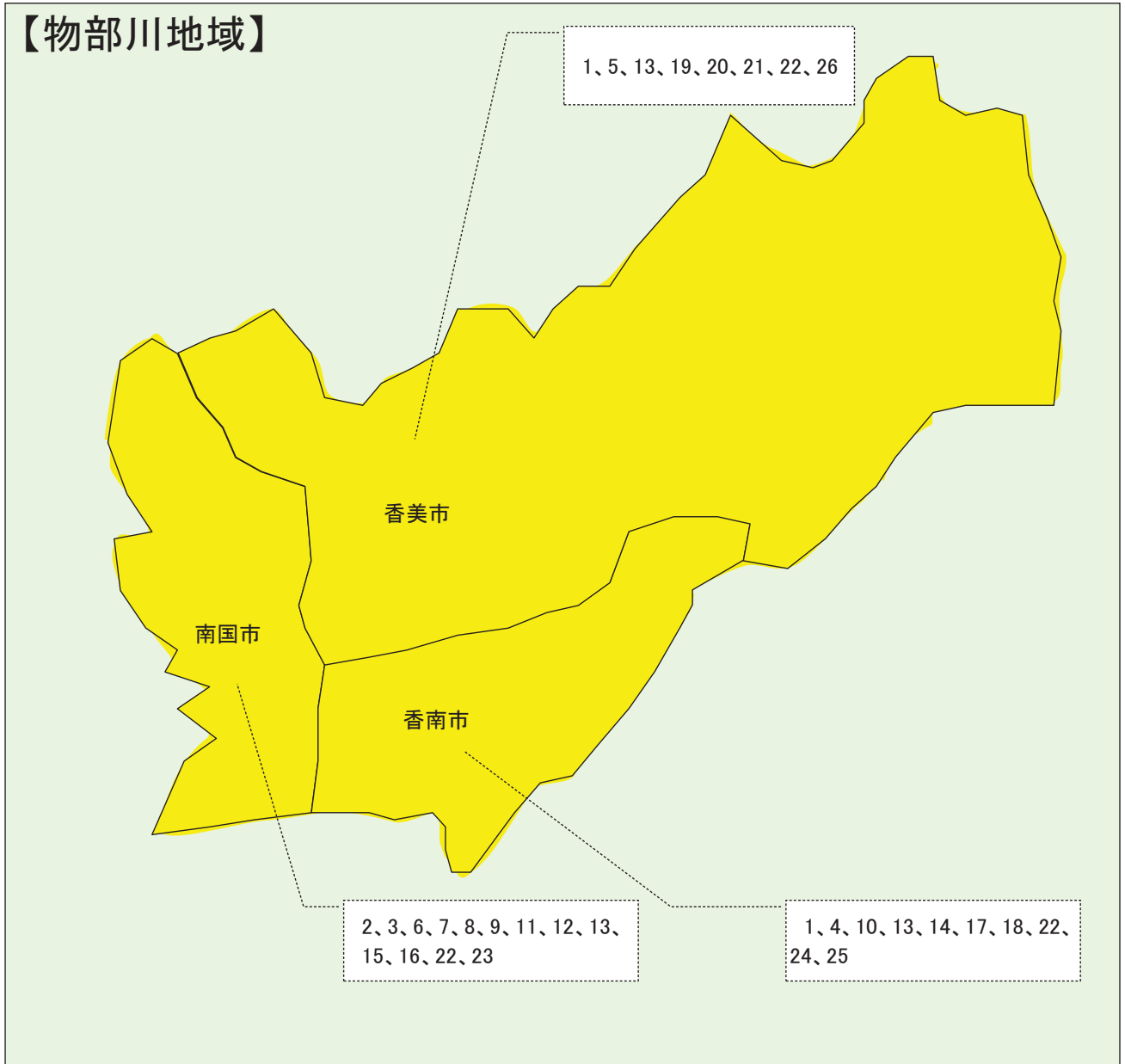
2 : ニラ、エメラルドメロンはJA土佐香美

3 : 地域内の主要観光施設訪問者数

(4) 具体的な取組

No.	項目	南国市	香南市	香美市
1	ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」		●	●
2	南国市の園芸基幹品目シシトウの振興	●		
3	還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化	●		
4	エメラルドメロンの販売力向上対策		●	
5	生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策			●
6	「なの市」「なのカフェ」の売上拡大による農家所得の向上	●		
7	「ごとおち市」の売上拡大による農家所得の向上	●		
8	地元野菜の消費拡大による地域農業の活性化	●		
9	農園レストランによる地域食材の消費拡大	●		
10	加工品販売による夜須地域の活性化		●	
11	「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組	●		
12	ヤギミルクの生産体制強化及び流通促進事業	●		
13	民有林における原木の増産	●	●	●
14	シイラ等の加工商材活用		●	
15	地域の特産品づくり ～農産物加工への取組～	●		
16	海洋堂ファクトリーと連携・連動した「ごめん」の賑わいづくり	●		
17	地域産品を活用したヤ・シイパークを核とする地域の活性化		●	
18	香南市の地場産品販売促進		●	
19	香美市における特産品づくりの推進			●
20	地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興			●
21	土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化			●
22	広域観光の取組の推進	●	●	●
23	南国市の地域資源を活用した参加型観光の推進	●		
24	体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信		●	
25	三宝山プロジェクト		●	
26	香美市における滞在型・体験型観光の推進			●

【物部川地域】



【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
1 ニラの産地力強化 「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」 《香南市、香美市》	H38園芸年度を目標に策定した産地ビジョンに基づき、作型改善や環境制御技術の導入による経営の安定化等に取り組むことにより、農家所得の向上を図るとともに、日本一のニラ産地の維持・拡大を目指す。	・JA土佐香美	アクションプランの取組開始：H21 ・トレーサビリティシステムの構築（H21～24） ・新技術や有望品種の導入などによる反収の増加とコスト削減（H24～） ・農家への意向調査を基に、経営改善の取組や機械化を推進（H24～） ・イベント等における産地の取組紹介や試食宣伝（H24～） ・鮮度保持対策や異物混入防止策の推進（H25～） ・作型改善など経営安定化対策及び新規就農者受入れ対策（H26～） ・新規就農者への栽培講習会の開催（H26～） ・産地提案書の作成（H28） ◆指導農業者や受入れ農家の拡充など、新規就農者対策の取組によって新規栽培者が増加した。 ◆調整機械の導入農家数が増加し、作業の効率化が図られた。 導入台数 H27:6台、H28:15台	・生産者の高齢化 ・規模拡大への取組 ・新規就農者の受入れ体制の強化 ・調整作業労力の確保と軽減 ・商品への異物混入や腐敗事故対策	◆生産上の対策  ◆流通・販売上の対策
2 南国市の園芸基幹品目シントウの振興 《南国市》	全国一のシントウ産地維持のため、関係機関と協力の上、コスト削減や品質改善などに取り組む、生産・流通・販売上の課題を解決する。	・JA南国市 ・JA長岡 ・JA十市	アクションプランの取組開始：H21 ・生産上の対策（H21～28） ・流通・販売上の対策（H21～28） ◆市販天敵を主体とした天敵導入率は90%以上、土着天敵タバコカスミカメの導入農家は55戸となり、IPM技術の普及が進んだ。 ◆3JA合同の生産者大会や現地検討会、販売促進活動など南国市全体での取組を推進した結果、3JAの生産者間での生産技術や販売促進に関する交流が活発になった。	・増収に繋がる技術の確立 ・安全安心の取組 ・産地の維持拡大	◆生産上の対策  ◆流通・販売上の対策
3 還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化 《南国市》	還元水を活用した野菜の生産を拡大し、「還元野菜」としてのブランド化を図るとともに、成分分析により機能性の検証を行う。	・JA南国市出資農業生産法人（株）南国スタイル ・（株）トリムエレクトリックマシナリー ・高知大学	アクションプランの取組開始：H25 ・機能性の検証（H25） ・還元野菜セットの販売（H26:230セット、H27:331セット） ・協力農家への整水器の導入（H27） ◆高知大学での試験栽培では、特定の品目で有意差のあるデータが得られている。協力農家へも整水器が導入され、生産体制の構築、機能性の検証は進みつつある。	・生産体制の強化 ・販路の拡大 ・機能性の検証	◆「還元野菜」の生産拡大  ◆「還元野菜」の販路開拓  ◆「還元野菜」の機能性の検証



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
生産上の対策					ニラ販売額 (H23園芸年度: 28.4億円) (H27園芸年度: 27.1億円)  ※販売額はJAへの入金額	29.7億円	
既存農家の経営安定、規模拡大志向農家の支援、新規就農者・品目転換農家の支援							
流通・販売上の対策					JAシントウ出荷量 (H27園芸年度: 679t)	760t	
販売PR活動、加工品の検討、機能性成分の検証							
生産上の対策					協力農家の戸数 (H27 3戸)	7戸(H28~31累計)	
増収・品質向上対策、環境保全型農業の推進、担い手の育成など							
流通・販売上の対策					「還元野菜」の売上 (H27 1,200千円)	10,000千円	
消費宣伝活動、市場との連携など							
「還元野菜」の生産拡大					機能性に基づく差別化 ができた品目数 (H27 累計0品目)	3品目(H28~31累計)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代ハウスの整備、生産拡大</li> <li>協力農家の募集</li> </ul>							
「還元野菜」の販路開拓							
直接販売、料理教室への提供、商談会等出展等							
「還元野菜」の機能性の検証							
<ul style="list-style-type: none"> <li>「還元野菜」の成分分析およびメカニズムの解明</li> <li>機能性の検証</li> </ul>							

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
4 エメラルドメロンの販売力向上対策 《香南市》	エメラルドメロンの生産性の強化と、さらなるブランド化の推進に取り組むことにより、農家所得の向上を図る。	・JA土佐香美	アクションプランの取組開始:H21 ・日射比例かん水制御システムの導入による生産農家のかん水作業の省力化(H21~23) ・関東地区での百貨店等における試食宣伝やバイヤーの産地招聘など継続した販売促進活動の実施(H21~28) ・難防除病害虫対策としてIPM実証に取り組みマニュアル作成、耐病性品種の導入検討(H24~28) ・産地パワーアップ事業活用による施設整備等生産基盤の強化(H28) ◆現地検討会や講習会などでの情報共有により、生産者の技術レベルが向上した。栽培戸数や面積は減少したものの、販売促進活動による知名度の向上により、単価は上昇し、販売額の維持につながった。	・難防除病害虫被害の軽減 ・低温期収量増の徹底 ・燃料費等の経費の節減	◆生産性強化の対策  ◆知名度・販売力の向上対策
5 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策 《香美市》	高齢化により生産の維持が困難になっている国内最大のユズ青果出荷産地を維持するため、労働力を省力化した大規模経営体の育成を推進する。 また、高齢者が生産活動をしやすい生産活動を継続しやすい生産体制を整備する。	・香美市 ・JA土佐香美	アクションプランの取組開始:H21 ・作業受託組織「ゆずもり」の整備(H22~24) ・生産者調査により、樹種・樹齢の状況や生産者の意向を把握(H24) ・貯蔵性に優れた系統(公文2号)「袖月」の販売開始(H24) ・ものべゆず女性倶楽部による消費宣伝の体制整備(H24) ・産地協議会と部会活動の活性化(H24~28) ・リレー出荷及び防除作業を省力化する経営モデル(1.5ha規模)の作成(H25) ・ほ場整備や防除作業の省力化及び集出荷体制の整備などを盛り込んだ「産地構造改革計画」の策定(H25) ・産地提案書の作成(H28) ・指導農士の認定(H28) ◆小袋包装機の導入により一般消費者向け商品の出荷が開始し、新たな販路が拡大した。 ◆スピードスプレーヤーの導入により、防除作業が省力化された。 ◆優良園地の経営継承、ほ場整備地への新植、産地提案型の担い手募集が進み、指導農士の下での研修生の受入れ体制が整備されたことで、新規就農者の自立を促進する仕組みが整った。	・担い手の育成や確保 ・大規模経営体(1.5ha以上)の育成 ・基盤整備の推進とスピードスプレーヤーの導入 ・荒選果作業の省力化 ・廃棄する際のルールづくり	◆担い手の育成・確保  ◆大規模経営体の育成  ◆高齢化に対応した生産体制の整備
6 「なの市」「なのカフェ」の売上拡大による農家所得の向上 《南国市》	旧直販所「あけぼの市」を国道195号通称「あけぼの街道」沿いに移転拡充した「なの市」「なのカフェ」で、地域農産物の販売や地域資源を活用した加工品の開発・販売及び飲食物の提供を行い、地域農業者の所得向上を図る。	・JA長岡 ・(株)なの工房	アクションプランの取組開始:H24 ・国道195号線沿いへの直販所・飲食店の移転・拡充・オープン(H25~26) ・売上目標達成に向けた商品構成の見直しやイベントを企画開催 ◆移転拡充により、雇用者数・売上ともに伸びており、農家所得の向上に繋がっている。 ・カフェ部門で、新メニューの提供開始(H27) ・地元果物を使った新商品の販売開始(H28)	・新商品、新メニューの開発 ・経費削減 ・カフェ部門の経営改善	◆利益率が高く、客層にあった新商品、新メニューの開発  ◆組織体制や運営方法の改善による経費削減

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
生産性強化の対策					→	エメラルドメロン販売額 (H23園芸年度: 4.4億円) (H27園芸年度: 4.5億円) ※販売額はJAへの入金額	4.6億円
増収、高品質生産向上対策、生産コスト低減技術、環境保全型農業の推進							
知名度・販売力の向上対策					→		
ブランド力の強化、有利販売につながる市場や量販店、実需者との連携							
担い手の育成・確保					→	ユズ販売額 (H23園芸年度: 4.3億円) (H27園芸年度: 5.2億円)	5.2億円
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修生受け入れ体制の整備</li> <li>指導農業士の増員</li> <li>研修支援事業の受託</li> </ul>							
大規模経営体の育成					→		
<ul style="list-style-type: none"> <li>改種やほ場整備の推進と省力機械(スピードスプレーヤー)の導入</li> <li>集落の維持が困難となっている地区へのユズ園の造成</li> <li>機械化に対応した栽培方法の推進</li> </ul>							
高齢化に対応した生産体制の整備					→		
<ul style="list-style-type: none"> <li>放棄園を出さない仕組みづくり</li> <li>荒選果作業の軽減</li> </ul>							
利益率が高く、客層にあった新商品、新メニューの開発					→	直販所等の売上高 (H22: 33,000千円) (H26: 171,000千円)	171,000千円
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域特産物を使ったパン、惣菜等の利益率の高いオリジナル商品の開発を行う</li> <li>客層に合わせた商品やメニューの開発を行う</li> </ul>							
組織体制や運営方法の改善による経費削減					→	直販所等の雇用者数 (H22: 3人) (H26: 32人)	32人
<ul style="list-style-type: none"> <li>会計システムの導入や勤務シフトの見直しによる人件費削減</li> <li>原価率の見直しや財務分析による経費削減</li> </ul>							

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
7 「ごとおち市」の売上拡大による農家所得の向上 《南国市》	旧直販所「ひかり市」を移転拡充した直販所「ごとおち市」で、地域農産物の販売や地域資源を活用した商品の開発・販売を行うことで、地域農業者の所得向上を図る。	・JA十市	アクションプランの取組開始:H24 ・直販所の移転・整備(H24) ・商品構成の充実のため、市場からの仕入れを開始(H25) ・地域農産物を活用した加工品(生姜ジュース)の開発、既存商品(ぶどうジュース)のリニューアル(H26) ◆移転拡充により、フロア面積の拡大や品揃えの充実、営業日の増加など直販所としての機能強化が進んだ。	・生産者会員の販売意欲向上 ・店舗運営体制の改善 ・オリジナル商品の開発	◆品揃えの充実及び情報発信による顧客獲得
8 地元野菜の消費拡大による地域農業の活性化 《南国市》	(株)南国スタイルを中心に学校給食や業務筋への地元野菜の供給を行うとともに、生産者と消費者をつなぐ場である「農家レストランまほろば畑」の経営の安定化を図ることにより、地産地消を推進し、地域産業の活性化を図る。	・JA南国市出資農業生産法人(株)南国スタイル ・農家レストランまほろば畑 ・南国市 ・道の駅南国風良里	アクションプランの取組開始:H21 ・「農家レストランまほろば畑」のオープン(H22) ・学校給食への食材供給体制の整備及び供給拡大 ・業務筋への供給体制の整備 ◆学校給食における地元野菜の供給割合及び業務筋への供給割合は、ともに目標値を上回る数字であり、農家レストランについても安定的に客数が見込めるようになってきている。	・(株)南国スタイルの配送にかかる人員及び配送車の不足 ・「農家レストランまほろば畑」メンバーの高齢化 ・利益の出る体制づくり	◆学校給食・業務筋への食材供給体制の整備及び供給拡大  ◆「農家レストランまほろば畑」の経営安定化
9 農園レストランによる地域食材の消費拡大 《南国市》	地域の農家所得の向上を図るため、地元食材をフル活用したオリジナル料理を堪能できるレストランとベーカリーを運営し、地元食材の消費を拡大するとともに新たな魅力を発信する。	・(株)ナイフアンドフォークカンパニー	アクションプランの取組開始:H26 ・レストランとベーカリーの整備、オープン(H27) ・地元食材を活用したメニューの提供(H27～) ◆H28.9月期売上高:220,991千円	地元食材の供給割合の増加及び安定させるための仕組みづくり	◆レストランとベーカリーの運営、情報発信
10 加工品販売による夜須地域の活性化 《香南市》	地場産品を活かした加工品開発・販売を行い、生産農家の所得向上につなげる。	・協同組合やすらぎ市	アクションプランの取組開始:H24 ・加工組織(製造部)の結成及び高知県産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した加工場の整備(H25) ・加工品開発及び改善(H25～28) ・地元加工業者と連携した商品開発(H24～27) ・民間情報誌等での取組紹介や商品情報等の発信(H26～28) ・新商品の開発・販売及び、既存商品の改善や新たなアイテムの追加(H27～28) ・専門家のアドバイスによる情報発信や売場改善(H27～28) ◆加工場の整備や新規雇用(4人)により生産体制が強化し、主力商品に加え、新商品の開発にも意欲的に取り組むことで加工品販売額が増加した。	・主力商品の定着 ・加工品の安定生産 ・商品数の充実 ・顧客ニーズに基づく商品開発	◆主力商品の定着・充実による経営の安定化  ◆新商品の開発及び既存商品の改善による顧客満足度の向上

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
<p>品揃えの充実及び情報発信による顧客獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者会員の販売意欲向上に向けた働きかけによる品揃えの充実、店舗の賑わいづくり</li> <li>・イベントの開催、HPの活用等による情報発信</li> </ul>					<p>直販所の売上高 (H22: 4,325千円) (H26: 28,250千円)</p> <p>直販所への出店者数 (H22: 11人) (H26: 97人)</p>	<p>50,000千円</p> <p>100人</p>
<p>学校給食・業務筋への食材供給体制の整備及び供給拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地場食材の配送業務の拡大</li> <li>・人員、配送車の確保による配送体制の強化</li> <li>・過年度の給食食材のデータ整理及び分析</li> <li>・受発注、食材確保等の仕組みづくり</li> </ul>					<p>学校給食における地元野菜の供給金額(割合) (H22: 3,080千円 (10.71%)) (H26: 5,373千円 (20.81%))</p> <p>業務筋への供給 (H22: 6事業体) (H26: 20事業体)</p>	<p>6,455千円 (25%)</p> <p>25事業体</p>
<p>「農家レストランまほろば畑」の経営安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様の満足度向上のための取組(入店方法の改善、新メニューの開発等)</li> <li>・安定的な経営維持のための取組(労働時間の短縮・負担軽減策の検討・実施)</li> <li>・運営グループ増またはメンバー増による経営基盤の安定化</li> </ul>						
<p>レストランとベーカリーの運営、情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域食材を活用したメニューの開発</li> <li>・メディア等によるPR活動、来客数増加のための取組</li> <li>・生産者との連携強化による地域食材の安定供給のための仕組みづくり</li> </ul>					<p>売上高 (H26: 0円)</p> <p>食材の地産地消費率 (H27: 83%)</p>	<p>200,500千円</p> <p>83%</p>
<p>主力商品の定着・充実による経営の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主力商品の生産販売計画の策定、継続販売</li> <li>・主力商品の評価、改善及び再編</li> <li>・FB等による顧客への商品情報の発信</li> </ul>					<p>加工品販売額 (H22: 0.7億円) (H26: 0.96億円)</p>	<p>1億円</p>
<p>新商品の開発及び既存商品の改善による顧客満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品の開発及び既存商品の改善</li> <li>・新商品等の販売、評価、改善</li> <li>・主力商品への格上げの検討</li> <li>・FB等による顧客への商品情報の発信</li> </ul>						



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>「ごめんケンカシャモ」の安定供給体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育担当の人員増加や直営鶏舎の整備等による飼育部門の強化、安定供給体制の確立</li> <li>・飼育データの収集・蓄積による飼育マニュアルの確立</li> <li>・飼育委託農家、地元高校との連携</li> <li>・生産量・品質(ブランド)の維持管理</li> <li>・生育～販売までの管理体制(トレーサビリティ)の確立、衛生管理の向上による高付加価値化</li> <li>・食鳥処理能力の拡大(処理施設の整備)</li> </ul>					<p>売上高 (H26: 21,553千円)</p>	<p>65,000千円</p>	
<p>加工品開発及びご当地グルメとしての確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度取組の検証、新たな加工品の開発</li> <li>・お歳暮ギフトやふるさと納税を活用した販路開拓、販売促進</li> <li>・市内のイベントでの振る舞いや出店販売等を通じたPR活動、マスメディア等を活用した情報発信</li> <li>・「シャモ鍋社中」加盟飲食店によるシャモ料理提供によるPR、同志(加盟店)の増加に向けた活動</li> </ul>							<p>ごめんケンカシャモ提供店舗数(市内) (H23: 15店舗) (H26: 19店舗)</p>
<p>高級食材としての外商戦略づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントやマスメディア等を活用したPR活動 ⇒ タイムリーな話題(トピックス)づくり</li> <li>・商談会参加等による都市圏外食産業への販売セールス、ネット販売等の外商チャンネルの活用</li> </ul>					<p>シャモ目標飼育羽数 (H23: 2,000羽) (H26: 1,859羽)</p>	<p>3,000羽</p>	
<p>「軍鶏伝」の売上増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSやマスメディアを活用した宣伝広告</li> <li>・メニューの見直し、シャモ肉を使った新たなメニューの開発</li> </ul>							
<p>組織の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営業、経理部門の人員増加</li> <li>・資金管理による経営強化</li> </ul>							
<p>畜舎等の整備・機能拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県ヤギ飼料生産組合の設立</li> <li>・新畜舎の整備、搾乳・飼料生産機械の導入</li> </ul> <p style="text-align: center;">施設の運営</p>					<p>売上高 (H26: 1,800千円)</p>	<p>30,200千円</p>	
<p>ヤギミルク・ヤギ肉の安定供給体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤギ飼育頭数の増加、ヤギミルク・ヤギ肉生産量の拡大</li> <li>・飼育データの収集・蓄積、高知大学等との共同研究による品質向上</li> <li>・事業拡大にあわせた組織体制づくり(新規雇用、人材育成等)</li> </ul>							
<p>販路開拓及び加工品の開発・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわり乳業㈱と連携したヤギミルクの販売、販路開拓</li> <li>・ヤギ肉試食会の開催、商談会への参加等によるヤギ肉の販路開拓</li> <li>・メディア、HP、フェイスブックを活用した情報発信</li> </ul> <p style="text-align: center;">ヤギミルクを活用した自社加工品、県内事業者と連携した加工品の開発</p>							

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
13 民有林における原木の増産 《物部川地域全域》	森林所有者の所得の向上と、山村地域の振興を図るため、原木の増産に取り組む。	・各森林組合 ・林業事業体等	アクションプランの取組開始:H21 ・森の工場の推進(H21~28) ・森林経営計画の策定(H24~28) ・林業事業体の育成(H21~28) ・担い手の育成確保(H21~28) ・放置林の解消(H21~28) ◆上記取組みの結果、事業地となる森の工場の面積が拡大し、あわせて作業道の開設や高性能林業機械の導入を図ることで原木生産量が増加した。	・森の工場における森林施業の同意率のアップ ・過疎化や高齢化等により境界の明確化が困難 ・担い手の確保と技術の向上	◆地元説明会の開催及び補助事業等の情報発信  ◆境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用  ◆OJT(緑の雇用)や林業学校と連携した担い手の確保
14 シイラ等の加工商材活用 《香南市》	シイラや養殖魚等の加工による浜値向上と付加価値増加を通じて、漁業者の所得の向上を図る。	・高知県漁協手結支所	アクションプランの取組開始:H21 ・漁協の入札参加(H21~) ・前処理加工の実施(H21~) ・施設整備(H21、H23) ・高知県食品高度衛生管理手法認定を取得(H26) ・ヘッドカッターの導入(H28) ◆上記取組みの結果、加工事業の販売額は順調に伸びている	・原魚の安定確保 ・衛生管理の向上と生産体制の強化 ・新魚種の取扱いと新規販売先の確保	◆漁協の入札参加と養殖業者等との協業化  ◆衛生管理の向上と生産体制の強化  ◆協業化による新たな魚種の取扱いと新規販路獲得
15 地域の特産品づくり ～農産物加工への取組～ 《南国市》	農産物等の6次産業化の推進に向けて、地域資源を活用して特産品開発に取り組む組織・グループを育成するとともに、顧客ニーズに沿った特産品づくりを促進する。また、商品化された加工品の売り込みを通じて、地域の魅力を発信する。	・なんこく空の駅推進協議会・西島園芸団地など既存企業・組織・グループ ・新しい組織・グループ ・JA南国市出資農業生産法人(株)南国スタイル ・南国市商工会 ・(一社)南国市観光協会	アクションプランの取組開始:H21 ・地域産品を活用した特産品づくり(H21~) ・農業生産法人実証組織(地域雇用創出実現事業)をもとに、JA南国市が出資する農業生産法人が設立された(H24) ・特産品づくりのための市単独補助金の創設(H24~) ・南国市雇用創出推進協議会による試作品開発や公開セミナー等の実施(H25~27) ・南国FOOD PLUSによる6次産業化の推進及び特産品開発事業費補助金(市単)の活用(H28) ◆特産品づくりに取り組む組織・グループが新たに設立され、商品開発やパッケージ改良等がすすみ、開発商品売上高は増加している。	・特産品づくりに取り組むプレーヤーの育成 ・顧客ニーズに沿った商品づくり、既存商品のさらなる磨き上げ ・開発商品の販路拡大及び外商促進	◆特産品づくりの振興  ◆直販所等の活用により、販路拡大につながる取組(地産地消から外商へ)



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>地元説明会の開催及び補助事業等の情報発信</p> <p>地元説明会の開催や広報誌、ホームページなどを活用した補助事業等の情報発信</p>					<p>原木生産量(民有林のみ) (H22: 26,053m<sup>3</sup>) (H26: 35,887m<sup>3</sup>)</p>	50,000m <sup>3</sup>	
<p>境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用</p> <p>森林境界明確化事業による境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用</p>							
<p>OJT(緑の雇用)や林業学校と連携した担い手の確保</p> <p>OJT(緑の雇用)や林業学校の研修受け入れなどによる担い手の確保</p>							
<p>漁協の入札参加と養殖業者等との協業化</p> <p>・漁協の入札参加 ・養殖業者等との協業化</p>					<p>シイラ加工事業の販売額 (H22: 2,571千円) (H26: 16,011千円)</p>	20,000千円	
<p>衛生管理の向上と生産体制の強化</p> <p>衛生的かつ効率的な生産体制の強化と維持向上</p> <p>ヘッドカッターの導入による生産性の向上</p>					<p>新たな魚種の取扱い尾数(新規)</p>	3,000尾	
<p>協業化による新たな魚種の取扱いと新規販路獲得</p> <p>新たな魚種の取扱いに向けた販売戦略の検討</p> <p>新たな魚種の加工品の取扱い、新たな販路開拓</p>							
<p>特産品づくりの振興</p> <p>・特産品づくりに取り組むプレーヤー(企業・組織・グループ)の育成 ・特産品づくりのための市単独補助金の活用促進 ・市、商工会、観光協会のコーディネーターから農工商連携を提案することによる特産品づくりの推進 ・テストマーケティング等による既存商品のブラッシュアップ</p>					<p>地域資源を活用した新たな特産品数 (H26: 0品目)</p>	10品目(H28～31累計)	
<p>直販所等の活用により、販路拡大につなげる取組(地産地消から外商へ)</p> <p>・直販所や道の駅等の既存施設を活用し、開発した特産品・加工品の販路拡大を図る。 ・地産地消でブラッシュアップされたものを外商に結びつけていく。</p>							



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>ビジョンに基づく賑わいの創出</p> <p>市などの関係機関、団体だけでなく、地元・地域を巻き込んだビジョンの実行</p>					<p>空き店舗活用数 (H26:1件(累計))</p>	<p>7件(累計)</p>	
<p>各種イベントの開催や空き店舗の活用等</p> <p>・海洋堂と連携・連動した各種イベントや取組を行う。 ・空き店舗や地域資源を生かしたイベントや取組を行う。</p>							
<p>施設整備</p> <p>・基本計画の策定 ・基本設計及び実施設計</p> <p>ものづくり、ひとづくり、まちづくりをコンセプトとした拠点施設の整備</p> <p>施設の管理及び運営体制の確立</p>							
<p>加工所兼店舗の運営</p> <p>・開業準備 ・研修</p> <p>・イベント等の実施による集客 ・近隣店舗との連携</p>					<p>加工所兼店舗の売上高 (新規) (H27:0円)</p>	<p>54,193千円</p>	
<p>販路開拓</p> <p>・商談会参加 ・催事出店 ・広報・営業活動 ・ネット販売の実施、ギフトカタログ等への掲載</p>							
<p>商品開発</p> <p>・試作品の作成 ・試食会の開催</p> <p>・新商品の開発、既存商品の改善 ・旬の地域食材を活用した季節ごとの目玉商品の開発</p>							
<p>地場産品の開発と販売促進</p> <p>・地場産品の開発 ・カタログ・ネット販売の促進 ・販路開拓への取組</p>					<p>売上高 (H26:8,407千円)</p>	<p>20,000千円</p>	
<p>地場産品販売促進体制の検討</p> <p>自立した継続運営を目指し、組織化等の検討</p> <p>自立運営体制の構築</p> <p>事業者が主体となった取組の実施</p>							



第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
<p>特産品開発、販路拡大</p> <p>・魅力ある特産品の開発(セミナー、勉強会等へ参加)          ・県内外へ販路拡大(商談会、展示会等への参加、アンテナショップ、ネットショップ等での販売)          ・特産品を活用したレストランメニューの提供          ・特産品の販売支援</p>					<p>開発商品売上高            (H22:5,218千円(8商品)            (H26:8,717千円(14商品))</p>	<p>10,000千円            (17商品)</p>
<p>経営安定化・後継者育成</p> <p>・経営安定化による所得向上(事業計画等の作成、規模拡大の検討)          ・後継者確保、育成(OJTによる育成、セミナー、勉強会等へ参加)</p>						
<p>地域の販売拠点施設の整備</p> <p>・魅力ある施設を目指したコンセプトづくり          ・拠点施設の整備(基本設計・実施設計・工事)</p>						
<p>土佐打刃物・フライフの普及及び新たな販路開拓</p> <p>・各種イベント等での土佐打刃物商品の販売促進活動の実施          ・土佐打刃物・フライフ産地及び商品PRの充実          ・体験観光プログラム化による土佐打刃物・フライフの魅力のPR          ・土佐打刃物の新商品の検討</p>					<p>地場産業(土佐打ち刃物、フライフ)後継者数</p>	<p>3人(H28~31累計)</p>
<p>次世代を担う人材の育成</p> <p>土佐打刃物製造の後継者育成の支援</p>						

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
21 土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化 《香美市》	利用可能な空き店舗の改修や、土佐山田えびす商店街のチャレンジショップであり、商店街と地域住民、移住者等の情報交流拠点施設でもある「ふらっと中町」の情報発信力を強化することなどにより、移住者による新規創業も含めた新たな店舗の開業を支援するとともに、商店街を含む地域の活性化を図る。	・香美市商工会 ・えびす街協同組合 ・地域活動団体 ・香美市	アクションプランの取組開始：H26 ・香美市民の移住や定住等に関する意識を調べるための地域状況調査(H26) ・土佐山田えびす商店街に「ふらっと中町チャレンジショップ(3コマ)」がオープン(H27) ・「ふらっと中町」において、情報交流拠点施設としての活動再開(H27) ◆H26の途中より閉店していた、土佐山田えびす商店街の地域アンテナショップ「ふらっと中町」が店舗を再開し、チャレンジショップと情報交流拠点としての活動を開始したことにより、商店街の賑わいが増えた。 ・「ふらっと中町チャレンジショップ」から2店舗が卒業(H28.7月、H29.1月)	・チャレンジャーの確保 ・空き店舗の調査及び活用策の検討	◆商店街を含む地域の活性化策の推進
22 広域観光の取組の推進 《物部川地域全域》	物部川地域の自然、観光施設、体験メニュー等の多様な観光資源を広域的に組み合わせ、魅力的な観光商品とするとともに、民間事業者の視点も踏まえて地域の観光資源を一層磨き上げ、情報発信を行うことにより、観光客の広域的な誘致を推進し、交流人口の拡大を図る。	・高知中央広域観光協議会のうち、南国市、香南市、香美市、(一社)南国市観光協会、(一社)香南市観光協会、(一社)香美市観光協会 ・物部川DMO協議会 ・(株)ものべみらい	アクションプランの取組開始：H24 ・広域観光を推進する母体となる物部川地域観光振興協議会を設立(H23)、エージェントセールス活動やモニターツアーを行い、エージェントのニーズを全体で共有するとともに、旅行商品化に向け検討した。(～H24) ・高知中央広域定住自立圏構想の枠組みのもと、高知市と物部川地域(南国市・香南市・香美市)が連携して、高知中央広域観光協議会を設立し、広域観光パンフレットやポスター等を作成し、プロモーション(エージェントセールス・モニターツアー)、観光・物産展を開催した。(H25～) ◆4市(高知市及び物部川地域を構成する3市)による取り組みがスタートし、広域観光を推進する体制がより充実した。(H25) ・物部川地域の観光活性化に向け、地域内の関係事業者等により設立された物部川DMO協議会及び、高知県観光活性化ファンドを活用して設立された(株)ものべみらいが、地域への誘客イベントを実施(H28) ◆民間事業者の視点も踏まえた、3市による広域観光の推進体制が新たに構築された。(H28)	・地域の観光資源の一層の発掘・磨き上げによる更なる誘客促進 ・新たな広域観光組織による円滑な事業運営	◆観光商品の充実  ◆観光客の広域誘致  ◆広域観光組織体制の充実・整備  ◆地域連携による周遊促進

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
<p>商店街を含む地域の活性化策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き店舗の調査及び改修</li> <li>・空き店舗の活用及び活性化策の推進</li> <li>・「ふらっと中町チャレンジショップ」の運営、PRの推進</li> <li>・情報交流拠点「ふらっと中町」の活動の活性化、PRの推進</li> </ul>					<p>空き店舗等を活用した新規開業 (H27:3件)</p>	<p>16件 (H28~31累計)</p>
<p>観光商品の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林漁家民泊の推進</li> <li>・農林漁業者や行政との連携による研修会の開催</li> <li>・体験メニュー等の新商品の開発・磨き上げ</li> <li>・関係団体等との連携による新たな観光資源の発掘・磨き上げの実施</li> </ul>					<p>観光客入込数 (H26: 134.1万人)</p>	<p>144.5万人</p> <p>(対象施設)            南国市: 県立歴史民俗資料館、西島園芸団地、パンフィックゴルフ、道の駅南国風良里(ショップ、直販所レジ通過人数)            香南市: 県立のいち動物公園、アクトランド、月見山こどもの森、絵金蔵、ヤ・シィパーク、弁天座(歌舞伎関係)、香南市サイクリングターミナル(宿泊以外)            香美市: アンパンマンミュージアム、ピースフルセレネ、龍河洞、べふ岬温泉</p>
<p>観光客の広域誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域観光プロモーションツールの作成</li> <li>・ターゲット地域の旅行会社等に対する販売促進活動の実施</li> <li>・地域内観光情報の発信</li> <li>・観光物産展の開催</li> </ul>						
<p>広域観光組織体制の充実・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体制・機能の段階的充実</li> <li>・広域観光の推進に関する関係団体、県等との協議</li> </ul>						
<p>新たな組織体制の構築</p>		<p>・計画に基づいた取組の実践及び見直し(PDCAサイクル)</p>				
<p>地域連携による周遊促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体等との連携企画イベント等の実施</li> </ul>						
<p>広域観光活性化計画に関する関係機関、県等との協議</p>		<p>・物部川地域の観光に携わる人材の育成</p>				


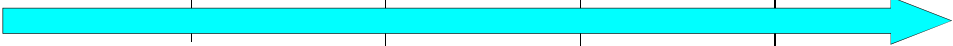



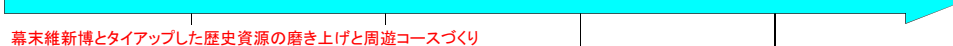
【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>23 南国市の地域資源を活用した参加型観光の推進 《南国市》</p>	<p>地域が誇る史跡資源(長宗我部等)を活用したイベント・ツアーへの参加をきっかけとして、周辺の観光名所・施設への来訪や市内観光への動機づけとなるよう繋げる「参加型観光」を推進していく。また、ユニークな地名を活かした観光プロモーション・情報発信を行うとともに、主要観光施設の整備等により観光客の利便性向上を図る。</p>	<p>・(一社)南国市観光協会 ・南国市観光クラスター連絡協議会 ・市内各観光に関わる企業・団体・グループ</p>	<p>アクションプランの取組開始:H21 ・観光コーディネート組織の設立(H21~23) ・観光協会に専任スタッフを配置(H24) ・観光協会の一般社団法人化(H25) ・観光ガイド組織「南国市観光案内人の会」の設立(H23) ◆観光協会の組織強化により、イベント運営体制の強化や観光資源のブラッシュアップが進んだ。 ◆市内の各観光施設の整備により、観光客の受入れ体制が整いつつある。</p>	<p>・市内観光名所・施設に観光客を呼び込むための情報発信の強化 ・史跡の観光資源としての磨き上げ ・観光協会の体制強化</p>	<p>◆参加型観光の推進</p> <p>◆幕末維新博とタイアップした市内観光周遊ルートづくり</p> <p>◆観光協会の体制強化</p>



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>参加型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南国市の地域資源を活用した参加型観光の新たなメニューづくり、既存メニュー(長宗我部元親ラリー、土佐の食1グランプリなど)のブラッシュアップ</li> <li>・SNSやメディア等のツールを有効活用した情報発信、プロモーション活動</li> <li>・県内外からの観光客の利便性向上に向けた主要観光施設の整備</li> <li>・イベントの企画や情報発信とあわせて、訪れた観光客の滞在時間を延ばし、市内回遊、飲食、宿泊、交通機関の利用など市内にお金を落としてもらおう仕組みづくり</li> </ul>					<p>主要4観光施設※の観光客入込数 (H21: 483,000人) (H26: 539,000人)</p> <p>※県立歴史民俗資料館、西島園芸団地、パシフィックゴルフ(以上、来場者)、道の駅南国風良里(ショップ、直販所のレジ通過人数)</p>	555,000人	
<p>幕末維新博とタイアップした市内観光周遊ルートづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南国市観光クラスター連絡協議会の設立、運営</li> <li>・周遊ルートづくり</li> <li>・観光案内ガイドの養成、観光案内パネル・ポスターの設置、歴史観光パンフレットの配布</li> <li>・レンタサイクルの拡充</li> <li>・観光パンフレットの多言語化</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周遊ルートのブラッシュアップおよび商品化</li> <li>・海外からの観光客の利便性向上に向けた主要観光施設の整備</li> </ul>							
<p>観光協会の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員増に向けた取組</li> <li>・会員への支援</li> </ul>							



第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
<p>体験観光等に関する情報の一元把握</p> <p>タリフ集の修正・追加</p>				     	観光客入込数(H26: 51.8万人)  (対象施設) 県立のいち動物公園、 アクトランド、月見山こ どもの森、絵金蔵、 ヤ・シィパーク、弁天座 (歌舞伎関係)、香南 市サイクリングターミ ナル(宿泊以外)	55万人
<p>体験メニューのブラッシュアップ等</p> <p>体験メニューの掘り起こし、磨き上げ</p>						
<p>旅行商品の造成と販売</p> <p>・コースプラン作成と販売、旅行代理店への売り込み ・募集型企画旅行の実施</p>						
<p>地域の観光情報の発信</p> <p>インターネット等を活用したPRの展開</p>						
<p>歌舞伎を核とした交流の場づくり</p> <p>・地歌舞伎等の招致及び公演 ・土佐絵金歌舞伎伝承会定期公演及びワークショップ ・歌舞伎による体験メニューの開発 ・歌舞伎によるまちおこしの情報発信</p>						
<p>幕末維新博とタイアップした歴史資源の磨き上げと周遊コースづくり</p> <p>・香南市観光クラスター協議会の設立、運営 ・周遊コースづくり ・観光案内パネルの設置、観光パンフレットの作成・配布 ・観光パンフレット、ホームページ、観光案内パネル等の 多言語化 ・レンタサイクルの充実</p> <p>・周遊コースのブラッシュアップ ・県外・海外からの誘客強化に向けた仕組みづくり</p>						



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>施設整備</p> <p>基本計画の策定</p> <p>実施設計</p> <p>施設整備</p> <p>開業</p> <p>運営開始</p>					<p>観光客入込数 (H27:0人)</p>	<p>20万人</p>	
<p>委員会の開催</p> <p>三宝山基本計画策定委員会で協議</p>							
<p>周辺施設との連携</p> <p>既存施設間での協力体制の強化、連携した取組の推進</p> <p>三宝山を核とした体験型観光エリアの形成</p>							
<p>体験型観光メニューづくりと推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験型観光メニューの造成、実施</li> <li>体験型観光メニューの受け皿(ガイド要請や受け入れ団体)づくり</li> </ul>					<p>主要4観光施設※の 入り込み数 (H26:284,665人)</p> <p>※アンパンマンミュージアム、ピースフルセレネ、龍河洞、べふ峡温泉</p>	<p>340,000人</p>	
<p>観光協会の組織体制の充実と取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光協会のホームページ、広報誌等を活用した情報発信</li> <li>既存の観光施設を核とした周遊プランの造成、実施</li> <li>観光イベントの企画、実施</li> <li>旅行業の取得、旅行商品の開発、セールス</li> </ul>							
<p>香北エリアを中心とした観光活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>改修のコンセプトや目指すべき姿、改修内容の策定</li> <li>管理運営体制の強化</li> <li>施設改修工事、営業再開</li> <li>アンパンマン原画レプリカの作成</li> <li>周辺資源や地域との連携体制の構築</li> <li>物部川IDMO協議会と連携したプロモーション活動</li> </ul>							